

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271200145		
法人名	有限会社グリーン・フォレスト		
事業所名	グループホーム東山		
所在地	静岡県御殿場市東田中1447-1		
自己評価作成日	平成21年11月12日	評価結果市町村受理日	平成22年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成21年12月9日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念「自立と尊厳」に基づき、入居者の「見たい」「食べたい」「行きたい」等の「〇〇したい」という気持ちを大切に、「たい」を拾い上げ一つでも多くの実現に取り組んでいます。しかし、現状の入居者の認知度、医療面での重度化が進んできています。ご自分の気持ちを訴えることの困難な入居者が増えてきているなか、スタッフ同士の連携を密にし、個別の対応が出来るよう、また、環境面での強化も考えるとともに、入居者が自分の意思のままに自分らしく生活し、一瞬一瞬を大切に「喜び」「満足」「笑顔」のある質の高い生活支援が出来るように努力しています。「自分の親や大切な人を当ホームに入居させられますか」の問いに職員全員が「ハイ」と答えられます。しかしこれぞ良しとせず常に謙虚に入居者に尊厳の気持ちを持ち、理念の実現に取り組んでいきます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

代表者・管理者・職員が一体となったホーム運営を基に、利用者職員との「和」を大切に日々のケアが行なわれている。地域行事や文化祭、ホーム行事などでの地域住民や家族との友好関係も築かれている。ホーム運営の基本となる職員や家族からの意見を基にした介護計画を、毎月のカンファレンスでモニタリングし定期的な見直しに繋げる仕組みが構築されている。利用者の思い「〇〇したい」を実現する独自の取り組みや、職員は出来る限りお世話したいというターミナルケアの実践などへ積極的に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中の一員として住み慣れた場所で馴染みの人達と共に暮らしていける様に援助する目標を掲げ、月一回ケアカンファレンスで話し合い確認をし、理念に基づき取り組めるようにしている。	ホーム理念「自立と尊厳」の実現に向け、利用者や職員との「和」を基に、利用者の自分らしい生活を支援するため代表者・管理者・職員が一体となって取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方々とは、気軽に挨拶がし合える関係である。特に隣の住人とは、お子さんがホームに遊びに来たり、ホームで行事のある時は招待をし、交流を深めている。	東山地区自治会に加入し地域行事や文化祭への参加や、ホーム行事に近隣の参加も有り地域との交流は活発に行われている。	近所の子供達と触れ合う交流もあるので、更に福祉体験受け入れなど小中学生との幅広い交流機会を作り出す取り組みが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「五竜太鼓」の演奏会を開催したり、市主催の「さくら祭り」に参加したり、地域の文化祭に参加し、地元の人々との交流を大切にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、現在の状況を報告するなかで意見を聞き、サービスの向上に役立っている。	2ヶ月に一度定期開催され、地域包括職員や地区関係者、近くの交番の出席もあり、ホームの状況報告や行事予定など様々な課題の話し合いが活発に行なわれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の会議、研修に積極的に参加している。また、入居申し込み等についても相談に応じている。	市主催の会議や研修会の参加のほか、民生委員の見学会や介護相談受け入れなどの協力関係を作っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはスタッフが理解しており、現在身体拘束は行っていない。しかし、玄関の施錠については、基本的には鍵をかけないという考えはあるが、入居者の状況により鍵を掛けざるを得ない状況にある。また、玄関にセンサーを取り付け音が鳴るようにしている。	身体拘束排除は運営理念や契約書に明記され、職員研修や毎月のカンファレンスでも確認され身体拘束の無い介護に取り組んでいる。	身体拘束排除ケア実践が行なわれているので、更に利用者や来訪者などの自由な出入りへと繋げる玄関開錠への工夫が期待される。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し学び、虐待の防止を徹底している。また、スタッフの精神状況についても気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行っている。また、入居者や家族の不安や疑問に対し対応するスタッフを配置している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご意見箱を設置している。 ・常に入居者の声や、面会時の家族の声に耳を傾け、日常の会話の中で意見や不満がないか気をつけている。	毎月の利用者の状況報告の手紙やホーム便り、運営推進会議での話し合いや、家族来訪時の面談、ご意見箱設置等から意見や要望を聞き、毎月のカンファレンスでその対応を共有しホーム運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に意見や提案が言える環境である。	毎月のカンファレンス、日々のミーティングなどで代表者や管理者、職員間の話し合い、意見交換が行なわれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	取り組んでいる。(正社員への昇進等)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・各研修に参加する機会を設けている。 ・資格取得に向け職員間で情報交換し、スキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他施設とおたよりの交換をしている。 ・今後、相互訪問等さらに交流を深める取り組みを行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常の会話の中で受容と共感の姿勢で入居者の気持ちを受け止める努力をしている。また、入居者が訴えることが困難な場合は、家族から要望を確認し、希望を反映出来るよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や入居後の面会等の機会に家族とのコミュニケーションをよく取り会話を大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階で、本人や家族の話を親身に伺い、相談内容により、他のサービスを含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来ること、出来そうなことを見極め、関わりを積極的に持ち、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、年に2度の家族交流会には積極的に声を掛け情報提供を行い、互いに相談しながら一緒に本人を支えていける様に努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時や入居後の日常の会話の中で、馴染みの人、場所を聞き出し、可能な限り、家族の協力を得ながら「会いたい人」「行きたい場所」の実現に取り組んでいる。	入居時のアセスメントや家族、利用者との交流の中から馴染みの人や場所等を聞きながら知人との面会や、墓参り、美容院、図書館などへの実現に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個性を把握し、周りの方との関係を理解した上でお互いに良い関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移られた方やご家族から現在も電話や手紙で連絡がある。また、以前入居されていた息子さんが職員に会いに来て下さる時もある。退居されても関係を断ち切らずいつでも相談や支援が出来るよう努力している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・入居時に本人や家族から意向を確認し、日々のケアに取り組むようにしている。 ・「〇〇たい実現報告書」を作成し、入居者との関わりを積極的に持ち、本人本位の生活に近づける様努力している。	入居時のアセスメントや日々のケアから利用者の希望や意向を把握し、職員一人ひとりがその人の思いを実現するための「〇〇たい実現報告書」でその実践に取り組んでいる。	「〇〇たい実現報告書」の思いを更に発展させ家族との更なる信頼関係を築くためにも家族の「〇〇たい実現」への取り組みも期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族にバックグラウンドを記入して頂き、入居後はセンター方式を使用してこれまでの暮らしを把握出来るよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日誌、記録により把握に努めている。 ・センター方式を使用し、総合的に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスで現状を把握し、担当医、家族とも相談しながら介護計画を作成している。	入居時のアセスメント、日々のケアからの職員の意見等を基に介護計画が作成され、長・短期目標に基づいたケアが実践されている。毎月のケアカンファレンスやモニタリングでその評価が確認され、次の計画見直しに活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別日誌や連絡ノートにより、情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当ホームで生活が困難になった場合、系列のグループホームへの転居等、柔軟に支援出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・定期的にボランティアの方が来て下さっている。 ・隣の住人とは、行事の際招待をし交流を深め「何かあったらいつでも言ってください」とのお言葉を頂き、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	休日、夜間いつでも相談、受診できる協力医療機関を確保している。	全員が従来からのかかりつけ医に受診しており、家族が行けない時は一緒に行き支援している。今ではグループホームで提携している提携医に移行し、月2回の往診と24時間対応の医療支援が行なわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格のある職員を確保している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が頻繁にお見舞いに行き、状態を確認し担当医と話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入居時に家族にターミナルの件については説明し、同意書を頂いている。 ・重度化された場合については本人の状況について家族と話し合い、希望を考慮し最善を尽くしている。	看取り対応の基本指針が確立しており本人や家族、医者とよく相談して同意書等も受理している。本人や家族が希望した場合、職員は出来る限りお世話したいとの考えを持っている。利用者の介護方針は、医師と話し合い職員同士で情報を共有している。	看取り対応の経験を活かし、ホームや職員、家族や医療機関との支援・対応のマニュアル等の整備に向けた取り組みが期待される。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習会 I を受講して応急手当や初期対応の仕方を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震の災害時の日中と夜間対応の防災訓練を定期的に行っている。 隣の住人へも協力をお願いしている。	施設の災害訓練は年2回実施され、夜間対応の訓練は職員一人で実施している。各部屋の入り口には、懐中電気と防災ズキンがおかれている。お米と水の備蓄もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の一人ひとりの違いを尊重し、その人に合わせた対応をしている。特に排泄に関する言葉掛けには配慮している。	利用者一人ひとりの人格を大切にしている。トイレに誘う時には、他人にわからないように、紙に書いて「今日はトイレにいきましたか？」と質問している。一人ひとりのプライドを損なわないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「〇〇たい実現報告書」を作成して、日常の関わりの中で入居者本位の生活ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりを理解し(性格、生活歴等)個別のケアが提供できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に洋服を選んだり、ホームでヘアカットもしているが、本人が希望する場合は、気分転換も兼ねて美容院へ行けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者により個人差があるが、出来ることを見極め一緒に献立を考えたり準備や片づけを行っている。また、認知度の重度化の為、準備や片づけが出来なくても食事は同じテーブルにつき会話を楽しんでいる。	栄養士の作った献立を基に利用者の希望を取り入れて職員と利用者と一緒にしている。食後は食器を片付けたりテーブル拭きをして、出来ることは職員と共にしていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立で栄養バランスもとれており、一人ひとりの疾病、体重の増減を把握している。また、水分摂取表も作成している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・歯磨きの自立している方は、食後声かけをし、洗面所まで誘導し支援している。 ・義歯は夕食後ホームで預かり、義歯洗浄剤を使用し保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、本人に最も合った排泄状況、介助方法を把握し、誘導して自立できるように支援している。	職員は、「和」を大切にしており、出来ることと出来ないことは、はっきりと説明している。排泄チェック表で排泄パターンを把握し極力トイレに誘導して自立を支援している。誘導タイミングは薬の影響も考慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事献立に気を配り、牛乳、ヨーグルトの提供、水分摂取の支援をしている。 ・レク、運動、散歩等により便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は(月火木金)と決めており、職員と一対一でゆっくりと入浴出来るようにしている。また、希望があればいつでも入浴出来る。	風呂は月火木金を基本に入りたい人には、毎日入ってもらっている。嫌がる人には声かけの工夫や足湯を進め、希望やタイミングを尊重している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には就寝時間は決めておらず、本人の好きな時間に休んで頂いている。眠りにつくまで不安な方もおられるが、職員が側に付き安心して頂けるよう声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬表を作成しており、一目で入居者の服薬状況を把握できる。服薬時には職員が確認している。薬が変更された時、新しい薬が処方された時は常に主治医にその後の報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割を見つけ習慣となるように支援している。趣味のある方には励まし、楽しみを続けられるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩、ドライブに出掛けています。日常の買い物も同行している。また、家族と相談し、家族との外食や自宅へ帰ることが出来るよう支援している。	利用者の意向を尊重し、近隣の散歩の他、スーパー、近くの公園、美容院、通院、地域行事、四季のドライブ等に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、個人の財布を用意して買い物や外出でご自分でお金を払うことを支援している。財布はホームで預かり、出納帳を作成して家族に確認して頂いている。(7/9人所持)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が書ける方には声を掛け奨励している。電話は依頼があればいつでも掛けられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たりのよい居間、落ち着いて暮らせる様に音の大きさ、採光に気を配り、食事作りの音、においを感じられる。いつも居間や玄関には入居者が生けた季節の花が飾られ居心地の良い空間作りを心掛けている。	居間や廊下の壁にはホーム行事の写真、利用者が書いた絵や書き物の作品が飾られ、利用者の活けた季節の花が穏やかな環境を整えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを置き、気のあった方同士が自由にくつろげる居場所があり、ゆっくりと過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て、使い慣れた家具や身の回り品の持ちこみで生活の持続性を大切にしている。	個々の部屋のは、それぞれの家族と相談して持ち込まれた、使い慣れた家具や備品、テレビ等の馴染み深いものが置かれていた。。利用者も居心地よさそうで、明るい感じであった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・居室入り口に手作りの表札を掛けている。 ・トイレ表示をし、自立支援の配慮をしている。		